





ありさんは、のどがかわいたので、  
みずをさがしてあるいていると、  
「あ、いけがみえた。」



いけのほとりへ やってくると、  
さっそく かおを ちかづけました。



ところが、あしをすべらせて  
さぶん、といけにおちてしまいました。



「たすえてえ、だれかあ！ おぼれるー！」



そこへ、はとさんがはっぱをおとしてくれました。  
ありさんははっぱにはいあがりました。



「ふう、たすかったあ。ありがとう、はとさん。」  
「どういたしまして。」



つぎのひ、はとさんがえさをつついていました。  
かりゅうどがゆみやでねらっています。





やを いろうとした そのとき、

「がぶっ！」

きのうの ありさんが あしにかみつきました。



「いててて！」  
やはそれで、はとはたすかりました。



やがなくなり、かりゅうどはかえっていきました。

「ありがとう、ありさん。たすかった。」

「どういたしまして。おんがえしができました。」



よいことをすると、  
じぶんにもよいことがおきるのですね。

## アリとハト

原作／イソップ寓話

絵／takemaro1

文／KW

<http://p.booklog.jp/book/38469>

著者：takemaro1

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/takemaro1/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/38469>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/38469>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.